

令和4年度

浦庄小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す・学び合う」力を定着させることによって、主体的に学習する児童を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 梅岡 由紀子	委員	校長 近藤秀樹	教頭 島尾雄大
		教務主任・高学年 研修主任・中学年 低学年	赤池隆(6年) 梅岡由紀子(4年) 柿部明子(1年)

校長

近藤 秀樹

【小中連携または中高連携における共通の取組】

系統的に「聴く・話す・学び合う」授業を行い、公開授業においてその取組を確認し合う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○言語に対する知識・理解や四則計算の力が定着しつつある ●上学年に進むに従って、学力の差が広がる傾向があり、文章の内容を正確に把握する力に課題が残る児童がいる。	・漢字の読み書きや四則計算などの基礎的・基本的な学力が確実に身に付いている。 ・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・授業の目標「めあて」を明確にし、めあてに沿った振り返りを充実させる。 ・ICTの活用や児童用タブレットの有効な活用を研究し、分かりやすい授業を展開する。 ・eライブラリなどを活用して個に応じた支援を行い、基礎的な学力の向上を図る。	・振り返りの仕方を引き続き研究し、教科や学年に応じた振り返りをする。 ・児童用タブレットの効果的な活用方法を情報交換し授業に生かす。 ・宿題や朝学で、前学年の漢字や計算の反復練習をする。	・振り返りを「書く」ということに限定せず、簡単な記号や挙手、友達と伝え合うなど振り返りの工夫をしながら、教科や単元に応じて取り組んだ。 ・課題が終わった児童は、eライブラリを活用し、復習問題に取り組んでいるが、進度に個人差がある。 ・計算力は身に付いてきたが、漢字については日常的な場面での活用に課題がある。	・振り返りの仕方や時間の確保について研究し、共有しながらよりよい方法を考えていく。振り返りによって児童の定着度を把握したり、次時につなげたりすることができるようにする。 ・効果的にeライブラリを活用できるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中まじめに学習に取り組み、自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる児童が多い。 ●自分の考えや思いを筋道を立てて話したり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、自分の思いや考えを明確にしたり深めたりすることができる。	・ペアやグループ学習の機会を設定したり、ワークシートや思考ツールを活用したりし、学び合う授業について研究・実践する。 ・日記や作文、ノート指導、新聞活用などを通して、自分の考えを書く機会を増やす。 ・読書活動とともに読書の記録を充実させ、長文読解に慣れさせる。	・ペアやグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。 ・様々な場面や条件に即して自分の考えを書く活動を積み重ねる。 ・県学力向上確認プリントを活用し思考力や表現力をつけていく。	・自分の考えを書いてから発表したり、資料をもとに話したりすることはできた。しかし、急に指名されたり、思考を整理したりして話すことには難しさを感じる児童もいる。 ・前向きに書く活動に取り組んでいる。日記には課題を与えることで、内容に広がりが見られた。 ・教師からのお薦めの本や国語科での並行読書で、長文を読む機会がもてたが、自分から読書ができない児童もいた。	・自分の考えや意見を自信をもって発言できるようにするための方策を話し合い、実行する。 ・年度途中で学級文庫の入替を行い、興味をもって読書ができるような環境づくりに努める。 ・県学力向上確認プリントや新聞「阿波っ子タイムズ」を活用して、初めて読む文章に慣れさせるとともに、思考力や表現力をつけていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にきちんと取り組むことができる児童が多い。 ●自ら自分に合った課題を見つけ、主体的に学習ができる児童は少ない。	・課題解決に向けて各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習を振り返り、新たな課題を見つけられることができる。	・発達段階に応じた発表の仕方(浦庄スタイル)を継続し、学び合う授業ができるようにする。 ・児童の意識の流れに沿っためあてを提示し、発問を工夫することにより児童の多様な考えを引き出す。 ・自主学習の手引きやよい見本を示し、内容の充実を図る。	・浦庄スタイルを継続しながら、学び合うための土台や雰囲気づくりをする。 ・自主学習コーナーを設けたり、他学年の実践を参考にしたりして取組を充実させる。	・浦庄スタイルに取り組み、生活アンケートでは「進んで手を挙げている」の肯定的割合は64%、「話をきちんと聞いている」の肯定的割合は94%だった。 ・自主学習が習慣付いてきた。学習の仕方が分かり、めあてや振り返りを書く児童もいて、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。	・年度初めに「話す」「学び合う」につながる聴き方を見直し、浦庄スタイルについて共通理解して取組を進める。 ・自主学習の充実を図りながら、自分に合った課題を見つけたり、自分で考えて判断したりする力を身に付けられるようにする。

令和4年度 学力向上ロードマップ

